

# パーキンソン病の話:あれこれ

## 姿勢異常3:首下がり



【図】パーキンソン病の姿勢異常「首下がり」

首が前に垂れる「首下がり」もパーキンソン病の姿勢異常としてあげられます(図)。腰曲がりを伴うこともあり、多くは進行した

時期に見られます。原因は、ジストニアと呼ばれる筋肉の緊張のバランスの崩れが考えられます。

### 急性発現の首下がり

パーキンソン病やパーキンソン症候群の治療中に、まれに数日間ほどで急に首が下がることがあります。多くの場合、ドパミンアゴニストに分類されるビ・シフロールという薬を飲んでおり、服薬を中止すればほとんどは回復します。

注意すべきは、このような場合に「多系統萎縮症」と診断される可能性が高いことです。パーキンソン病と多系統萎縮症は症状が類似しているため、診断を再考し

なければならぬ症状です。

### 首下がりを示す病気

首下がりとは、首を真っすぐに支える筋肉が弱くなるのが原因で、まず筋肉の病気を考えなければいけません。表の①～③に挙げる病気が代表的で、首下がりだけなら

#### 表【首下がりを示す病気】

- ① 筋緊張性ジストロフィー
- ② 多発性筋炎
- ③ 重症筋無力症
- ④ 筋萎縮性側索硬化症
- ⑤ 変形性頸椎症
- ⑥ 多系統萎縮症
- ⑦ パーキンソン病

重症筋無力症です。

多系統萎縮症では、パーキンソン病と類似した症状があるので、筋肉の病気との区別は難しくはありません。パーキンソン症候群の首下がりとは、まず多系統萎縮症を考慮すべきだとされています。また、筋肉の病気などによる首下がりは、病気の早期から見られるのも特徴です。

### 治療

薬剤の副作用の場合は、薬の中止が必要です。原因の病気があれば治療を行います。病気によっては治療法が十分でない場合があります。首のカラーを着けることもあります。